

「読書週間」の由来
その昔、ギリシア神話の女神アテナの使者であり、また、代表的なギリシア文化の中心地アテナイ（アテネ）の聖鳥でもあった。古代のギリシア人は「ふくろ」を知識の象徴として大切にしていた。ふくろの奥ふかく、静かに瞑想（めいそう）にふけるこの「ふくろ」の姿こそ、読書週間のシンボルマークとしてもってこいさわしいものと考えられており、長い間使用されている。



11月9日まで「読書」

「他のスポーツにも参考になると思います」

「なぜしてジャパンはなぜ世界一になれたのか？」



早大大学院スポーツ科学研究科 平田竹男教授が著した「なぜしてジャパンはなぜ世界一になれたのか？」がポプラ社から発売中。

日本サッカー協会専務理事として、なでしこジャパンの普及に尽力した同教授。ライナーズスポーツだった女子サッカー強化のために、教授が行ったさまざまな施策の裏側が明らかにされている。

同書の発行日は9月1日。7月17日のW杯優勝からわずか1カ月半後の刊行は驚き。平田教授は「1カ月で書き上げました。ふだん学生たち



平田竹男（ひらた たけお）
1960年（昭35）大阪生まれの51歳。横浜国立大卒、ハーバード大を経て82年通産省（現経済産業省）入省。フロリダ州検討委員会に参加し、リーグ発足に尽力。日本サッカー協会国際委員としてW杯日本招致にも携わる。02年同協会専務理事に就任。06年から早大大学院スポーツ科学研究科教授として教鞭をふる。門下生には野球の桑田真澄氏、水泳の平井伯昌氏がいる。

育成をトッパ強化にならなかった理由は？

「異端者たちのセンターサークル」
プロサッカー選手を育てるということ

1969年のクラブ創設以来、他に先駆けてサッカー選手育成に取組んできた東京ヴェルディの足跡をたどる「異端者たちのセンターサークル」が、プロサッカー選手を育てるという「育」と「白晝書房」から発売中。



2000年代に入り、凋落（ちようらく）の一途をたどる東京ヴェルディにとって、育成組織はなげなしの誇りだった。さまざまな苦境においても、育成に対する自信がクラブを支えていたと、多くのプロが生まれたのか。そして、育成のアドバンテージをトップの強化につなげられなかった理由は？東京ヴェルディを10年以上にわたって見続けてきた著者・海江田哲朗氏だからこそ書ける究極の育成ノウハウが盛り込まれている。税込6945円。

「読書週間」の由来
その昔、ギリシア神話の女神アテナの使者であり、また、代表的なギリシア文化の中心地アテナイ（アテネ）の聖鳥でもあった。古代のギリシア人は「ふくろ」を知識の象徴として大切にしていた。ふくろの奥ふかく、静かに瞑想（めいそう）にふけるこの「ふくろ」の姿こそ、読書週間のシンボルマークとしてもってこいさわしいものと考えられており、長い間使用されている。